

走れメロス1

学習のポイント

- ・描写や会話に注目して、心情の変化を読み取る。→2の③、⑧・3の⑤、⑧
- ・人物の心情や性格を捉える。→1の①、④、⑥、⑦、⑨・2の④、⑦、⑧・3の⑤、⑥、⑨
- ・表現の特徴に注目して、その効果を捉える。→1の⑤、⑧・2の①、③、⑤、⑥

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

「妹の結婚式の用意のために、シラクスの町にやって来た牧人メロスは、王の暴虐ぶりを耳にする。」

② 聞いて、メロスは激怒した。「あきれた王だ。生かしておけぬ。」メロスは単純な男であった。買い物を負ったまま、そのその王城に入ってしまった。たちまち彼は、巡邏の警吏に捕縛された。調べられて、メロスの懐中からは短剣が出てきたので、騒ぎが大きくなってしまった。メロスは王の前に引き出された。

「この短剣で何をするつもりであったか。言え！」暴君ディオニスは静かに、けれども威厳をもって問い詰めた。その王の顔は蒼白で、眉間のしわは刻み込まれたように深かった。

「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは、悪びれずに答えた。「おまえが何か？」王は、憫笑した。「しかたのないやつじゃ。おまえなどには、わしの孤独の心がわからぬ。」

「言うな！」とメロスは、いきり立って反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさえ疑っておられる。」

「疑うのが正当の心構えなのだ、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、あてにならない。人間は、もともと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほっとため息をついた。「わしだって、平和を望んでいるのだが。」

⑤ 「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑した。

⑥ 「罪のない人を殺して、何が平和だ。」

□(1) 線①「王」とありますが、メロスが王ディオニスのことを呼んだ他の言葉を文章中から二字で書き抜きなさい。

□(2) 線②「メロスは単純な男であった」とありますが、これはメロスのどんな行動を指しているものですか。その行動を書きなさい。

□(3) 線③「人間は、もともと私欲の塊さ」、④「わしだって、平和を望んでいるのだが」などから考えられる王の考え方として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 国を私欲から守るために孤独にたえて政治を行っているのだ。
イ 私欲は国の安泰を脅かし、滅ぼす原因となるものである。
ウ 自分の地位を守るために私欲と闘っているのだ。
エ 好きこのんで人を疑い、処刑しているのではない。

□(4) 線⑤「今度はメロスが嘲笑した」の「今度は」は、どんな事柄に対応していますか。文章中から七字で探し、書き抜きなさい。

□(5) 線⑥「報いた」の、この場合の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア お礼を言った。 イ 言い返した。
ウ 相づちを打った。 エ 慰めた。

□(6) 線⑦「人のほらわたの奥底」とありますが、王は、そこに何があると考えていますか。文章中から二字で書き抜きなさい。

① 邪悪な心

② 暴虐の限りを尽くす

③ 花嫁を祝う

④ 花嫁衣装に見とれる

⑤ 祝宴のごちそう

⑥ 賢人の教え

⑦ 城内の警吏

⑧ 眉間のしわ

⑨ 流浪の民

⑩ 一矢を報いる

⑪ 命乞いをする

□(12) 旅館の亭主

□(13) ナマイキな性格

□(14) グンシユウの声

□(15) ハデな暮らし

□(16) スガタを見せる

□(17) 新居をオトズれる

□(18) ギロンを続ける

□(19) ケツエキ検査

□(20) 約束のコクゲン

「黙れ。」王は、さっと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人のほらわたの奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、今にはりつけになってから、泣いてわびたって聞かぬぞ。」

「ああ、王は利口だ。うぬぼれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命乞いなど決してしない。ただ、——」と言いかけて、メロスは足元に視線を落とし、瞬時ためらい、「ただ私に情けをかけたつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たった一人の妹に、亭主を持たせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰ってきます。」

「ばかな。」と暴君は、しゃがれた声で低く笑った。「とんでもないうそを言うわい。逃がした小鳥が帰ってくるとう言うのか。」

「そうです。帰ってくるのです。」メロスは必死で言い張った。「私は約束を守ります。私を三日間だけ許してください。妹が私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮れまで、ここに帰つてこなかったら、あの友人を絞め殺してください。頼む。そうしてください。」

(大宰 治「走れメロス」より)

重要語句

☆次の言葉の意味を答えなさい。または、その言葉を使った例文を書きなさい。

①	律儀	意味	律儀な彼はほまめにお礼の手紙を書く。
②	嘲笑	意味	人の失敗を嘲笑する。

③	持ち前	意味	生まれつき。
④	悪びれる	意味	気後れして、意気地なくふるまう。

走れメロス2

太宰 治

教科書 P. 200 ~ P. 202

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

村に帰り着いたメロスは、翌日に妹の結婚式を挙げさせる。明るく、メロスは王城に向けて出発する。

ああ、あ、濁流を泳ぎ切り、山賊を三人も打ち倒し、韋駄天、ここまで突破してきたメロスよ。真の勇者、メロスよ。今、ここで、疲れ切つて動けなくなるとは情けない。愛する友は、おまえを信じたばかりに、やがて殺されなければならぬ。おまえは、希代の不信の人間、まさしく王の思うつぼだと自分を叱つてみるのだが、全身萎えて、もはや [] ほどにも前進かなわぬ。路傍の草原にころりと寝転がった。身体疲労すれば、精神も共にやられる。もう、どうでもいいという、勇者に不似合いなふてくされた根性が、心の隅に巣くった。私は、これほど努力したのだ。約束を破る心は、みじんもなかった。神も照覧、私は精いっぱいに努めてきたのだ。動けなくなるまで走ってきたのだ。私は不信の徒ではない。ああ、できることなら私の胸を断ち割つて、真紅の心臓をお目にかきたい。愛と信実の血液だけで動いているこの心臓を見せたい。けれども私は、この大事なときに、精も根も尽きたのだ。私は、よくよく不幸な男だ。私は、きつと笑われる。私の一家も笑われる。私は友を欺いた。途中で倒れるのは、初めから何もしないのと同じことだ。ああ、もう、どうでもいい。これが、私の定まった運命なのかもしれない。セリヌンティウスよ、許してくれ。君は、いつでも私を信じた。私も君を欺かなかった。私たちは、本当によい友と友であったのだ。一度だつて、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことはなかった。今だつて、君は私を無心に待っているだろう。ああ、待っているだろう。ありがとう、セリヌンティウス。よくも私を信じてくれた。それを25

を欺くつもりは、みじんもなかった。信じてくれ！ 私は急ぎに急いでここまで来たのだ。濁流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けて一気に峠を駆け降りてきたのだ。私だからできたのだよ。ああ、このうえ、私に望みもな。放つておいてくれ。どうでもいいのだ。私は負けたのだ。だらしない。笑つてくれ。王は私に、ちょっと遅れて来い、と耳打ちした。遅れたら、身代わりを殺して、私を助けてくれると約束した。私は王の卑劣を憎んだ。けれども、今になってみると、私は王の言うままになって35いる。私は遅れていくだろう。王は、独り合点して私を笑い、そうしてこともなく私を放免するだろう。そうなつたら、私は、死ぬよりつらい。私は、永遠に裏切り者だ。地上で最も不名誉の人間種だ。セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君といっしょに死なせてくれ。君だけは私を信じてくれるにちがいない。いや、それも40私の、独りよがりか？ ああ、もういっせ、悪徳者として生き延びてやろうか。村には私の家がある。羊もいる。妹夫婦は、まさか私を村から追出すようなことはしないだろう。正義だの、信実だの、愛だの、考えてみればくだらない。人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法ではなかったか。ああ、何もかも45ばかばかしい。私は醜い裏切り者だ。どうとも勝手にするがよい。やんぬるかな。――四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった。

(注) 韋駄天：俊足な仏法の守護神。 希代：世にもまれなこと。
定法：いつも通りの法則。 やんぬるかな：もうおしまいだ。
四肢：両腕と両脚のこと。

〔1〕 [] にあてはまる最も適切な言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 矢 イ 疾風
ウ 馬 エ 羊虫

〔2〕 線①「不信」について、次の問いに答えなさい。

- A 「不信」の、この場合の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 信用しないこと。 イ 信義を守らないこと。
ウ 信用されないこと。 エ 信頼を失うこと。
- B 「不信」の、この場合の対義語を文章中から探し、書き抜きなさい。

〔3〕 線②「私は、これほど努力したのだ」という部分から、メロスが心の中で独白する一人称形式の文が始まっていますが、それはどこまで続いていますか。最後の一文を書き抜きなさい。

〔4〕 線③「もう、どうでもいい」とは、どんな気持ちの持ち方を表したのですか。これより前の文章中から八字で探し、書き抜きなさい。

〔5〕 線④「暗い疑惑の雲」という隠喩表現を、十字以内で直喩表現に言い換えなさい。

〔6〕 線⑤「無心」の、この場合の意味として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- 〔1〕 強風が荒れ狂う
〔2〕 胴の長い犬
〔3〕 山賊を倒す
〔4〕 素手で殴る
〔5〕 隙を見つける
〔6〕 天を仰ぐ
〔7〕 気力が萎える
〔8〕 芋虫は幼虫
〔9〕 路傍の石
〔10〕 敵を欺く
〔11〕 卑劣な行動
〔12〕 醜い争い

ア 物をねだる。 イ 何の疑いもなく信じ切っている。
ウ 無邪気。 エ 何も考えたり思ったりしない。

〔7〕 線⑥「独り合点」、⑦「独りよがり」について、次の問いに答えなさい。

- A それぞれの意味として最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。
ア 自分だけのものにする。こと。
イ 大勢の中で独りだけ能力が優れていること。
ウ 自分だけが正しいと考えること。
エ 自分だけわかつたつもりでいること。
オ 自分の力で世に立つこと。

B 「独り合点」の具体的な内容を、「こと」という形で十字以内で書きなさい。

〔8〕 線⑧「悪徳者として生き延びてやろうか」と考えるメロスの意識を説明した言葉として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自己保身 イ 居直り
ウ 自暴自棄 エ 自負

重要な語句

☆次の言葉の意味を答えなさい。または、その言葉を使った例文を書きなさい。

①	突破	意味	敵の囲みを突破する。
②	遂行	意味	苦勞はしたが、無事に任務を遂行した。

③	まさか	意味	(あとに打ち消しを伴って) よもや。
④	ひるむ	意味	勢いに押されて、気弱になる。

- 〔13〕 ホコりに思う
〔14〕 チュウセイを誓う
〔15〕 私利シヨクに走る
〔16〕 汗をタラす
〔17〕 公園のジユモク
〔18〕 コキユウが乱れる
〔19〕 ハイゴから眺める
〔20〕 川のスイゲン

走れメロス3

太宰 治

教科書 P. 202 ~ P. 204

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

「メロスは、濁流や山賊のために疲労しきって倒れ、自暴自棄の心
情の中で、うとうとまどろんでしまふ。」

ふと耳に、*せんせん、水の流れる音が聞こえた。そつと頭をもたげ、息をのんで耳を澄ました。すぐ足元で、水が流れているらしい。A 起き上がった、見ると、岩の裂け目から B、5
何か小さくささやきながら清水が湧き出ているのである。その泉に吸い込まれるようにメロスは身をかがめた。水を両手ですくつて、一口飲んだ。ほうと長いため息が出て、夢から覚めたような気がした。歩ける。行こう。肉体の疲労回復とともに、僅かながら希望が生まれた。義務遂行の希望である。我が身を殺して、名譽を守る希望である。斜陽は赤い光を木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。日没までには、まだ間がある。私を待っている人があるのだ。少しも疑わず、静かに期待してくれている人があるのだ。私は信じられている。私の命などは問題ではない。死んでおわびなどと、気のいいことは言っておられぬ。私は信頼に報いなければならぬ。今はただその一事だ。走れ！メロス。

私は信頼されている。私は信頼されている。先刻の、あの悪魔のささやきは、あれは夢だ。悪い夢だ。忘れてしまえ。五臓が疲れているときは、C あんな悪い夢を見るものだ。メロス、20
おまえの恥ではない。やはり、おまえは真の勇者だ。再び立って走れるようになったではないか。ありがたい！私は正義の士として死ぬことができるぞ。ああ、日が沈む。D 沈む。待つてくれ、ゼウスよ。私は生まれたときから正直な男であった。正直な男のままに死なせてください。

□(1) A～Eにあてはまる最も適切な言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア きらきら イ ふいと ウ こんこんと
エ よろよろ オ ずんずん

A B C D E

□(2) 線①「我が身を殺して、名譽を守る」とほぼ同じ意味の言葉を文章中から九字で探し、書き抜きなさい。

□(3) 線②「斜陽は赤い光を木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている」とありますが、この情景描写に表されているメロスの心情として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 王に対する憎悪。 イ 情熱的な希望。
ウ 死に臨む決意。 エ 疲れによる混乱。

□(4) 線③「気のいい」の、この場合の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自己満足。 イ 誠実。
ウ 律儀。 エ 思いやりがある。

□(5) 線④「その一事」が指している事柄を文章中の言葉を使って十字以内で書きなさい。

□(6) 線⑤「走れ！メロス」という言葉の解釈として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 酒に酔う
- ② 拳を振り上げる
- ③ 泉に水が湧く
- ④ 川の氾濫
- ⑤ 義務を遂行する
- ⑥ 悪魔のささやき
- ⑦ ボールを蹴飛ばす
- ⑧ 小耳に挟む
- ⑨ みすばらしい風体
- ⑩ 裸体を描く
- ⑪ ヤクソクを守る
- ⑫ 実現にツトめる

道行く人を押しわけ、はね飛ばし、メロスは黒い風のように走った。野原で酒宴の、その宴席の真ただ中を駆け抜け、酒宴の人たちを仰天させ、犬を蹴飛ばし、小川を飛び越え、少しづつ沈んでゆく太陽の、十倍も速く走った。一団の旅人とさつとすれ違った瞬間、不吉な会話を小耳に挟んだ。「今頃は、あの男も、は30

りつけにかかっているよ。」ああ、その男、その男のために私は、今こんなに走っているのだ。その男を死なせてはならない。急げ、メロス。遅れてはならぬ。愛と誠の力を、今こそ知らせてやるがよい。風体なんかはどうでもいい。メロスは、今は、ほとんど全裸体であった。呼吸もできず、二度、三度、口から血が噴き出た。35
見える。はるか向こうに小さく、シラクスの町の塔楼が見える。塔楼は、夕日を受けて E 光っている。

(注) せんせん：川の水などがさらさらと流れる様子。
五臓：内臓を総じた名称。ここでは体全体を表す。
塔楼：高くそびえる建物。

□(7) 線⑥「あの男」と同じ人物を表した言葉をこれより前の文章中から二つ探し、書き抜きなさい。

□(8) この文章より前では、メロスは友に対する裏切りを考えていますが、この文章では、それをどのような言葉にたとえていますか。七字と三字で二つ書き抜きなさい。

□(9) メロスの生命が極限状態におちいつていることがわかる一文を探し、初めの五字を書き抜きなさい。

- ⑬ ムネを張る
- ⑭ シンゾウの手術
- ⑮ やさしい心
- ⑯ ツミを問われる
- ⑰ 小雨が降り出す
- ⑱ とんだサインだ
- ⑲ 出場シカクを得る
- ⑳ 海が渦をまく

重要な語句

☆次の言葉の意味を答えなさい。または、その言葉を使った例文を書きなさい。

①	仰天	意味	信じられない知らせを聞いて仰天する。
②	無二	意味	彼と僕は無二の親友だ。

③	まじまじ	意味	じつと。
④	どよめく	意味	大勢が騒ぐ。